

HCUにおけるNHF使用中の看護介入の現状

○松下 結衣, 山本 初美, 三井 綾乃 (社会医療法人三栄会 ツカザキ病院)

I. はじめに

A病院の高度治療室 (High Care Unit ; 以下HCUとする) では、酸素療法を受ける患者が多く、Nasal High Flow : NHF (以下NHFとする) を使用する機会が多い。NHFは、マスクを用いた酸素療法に比べ顔面の圧迫感がなく、呼吸困難を軽減することができるかとされている。しかし、HCUではNHF装着に伴う不快感を患者から聴くことがあり、看護師の介入方法に違いがあるのではないかと考えた。そこで、NHF装着中の患者に対し不快感を軽減するための看護介入の現状を明らかにするため、本研究を実施した。

II. 研究方法

1. 研究期間 : 2022年8月~2023年8月
2. 対象者 : HCUに勤務している副師長・研究者以外の看護師17人
3. データ収集方法 : 半構成的面接法
4. データ分析方法 : インタビュー内容を逐語録にし、不快感をカテゴリー化。看護ケアについてケアの実施有無をカウントし、その結果を考察した。
5. 倫理的配慮 : A病院倫理委員会の承諾を得て実施した。調査への協力は回答者の自由意思であり、同意が得られなくても何ら不利益を受けることはないことを口頭と紙面で説明した。

III. 結果

インタビューの結果、看護師が聞いたNHF装着中の患者の不快感を「熱い」「風圧」「鼻の不快感」「痛い」の4つにカテゴリー化した。次に看護師経験年数別に看護ケアと機器管理的視点に分け、表にまとめた (表1)。風圧に対する看護介入は、全ての看護師が行えており、呼吸方法の指導・必要性の説明・医師の指示のもと、酸素マスクへ変更などがされていた。

表1 看護師経験年数別の不快感への対応

経験年数 (人)	3年未満 (4)		3~10年未満 (6)		10年以上 (6)	
	看護ケア	機器管理	看護ケア	機器管理	看護ケア	機器管理
不快感 (件)						
熱い (5)	0	0	1	2	1	3
風圧 (13)	6	0	3	2	3	2
鼻の不快感 (2)	0	0	0	0	2	0
痛い (4)	1	0	1	0	1	1

IV. 考察

鼻の不快感への看護介入は、10年以上の看護師のみ対応していた。また、4つの不快感に対しすべての看護ケアを行っていた。3年未満の看護師は機器の管理ができていない現状が明らかになった。看護ケアを通して培った経験値が高い程、広い視野で看護していると言える。ベナーは「達人は、成熟した実践を重ねた状況の識別に基づいて、何が達成されなければならないかを知っているだけでなく目標をどのように達成するのかも知っている」と報告している。今回の結果からは、経験値が高い看護師が、多くの不快感をとらえていた。